

富山県の有機農業推進の取組み R5年度

とやま有機農業推進アドバイザー制度

県内の先駆的な実践農業者をアドバイザーとして登録し、新規栽培者等への助言・指導を行う体制を整備しました。



委嘱状交付式（令和5年5月23日）

アドバイザー名	取組地域	主な品目
河上 めぐみ	富山市土	水稲29ha、そば1ha
杉林 外文	富山市長岡	野菜2ha(多品目)
廣 和仁	氷見市長坂	野菜1ha(多品目)
蓑口 潔	南砺市田尻	水稲6ha
宮田 香代子	富山市小羽	水稲40ha、大豆15ha

とやま有機農業アカデミーの開催

とやま有機農業推進アドバイザーを講師とした、座学と現地ほ場での研修会を開催しました。（全5回講座で、延べ52人が受講されました。）



第1回講座 令和5年6月28日

機械除草による雑草防除など



第4回講座 令和5年7月26日

野菜が育つ土づくりの実践など



第5回講座 令和5年8月2日

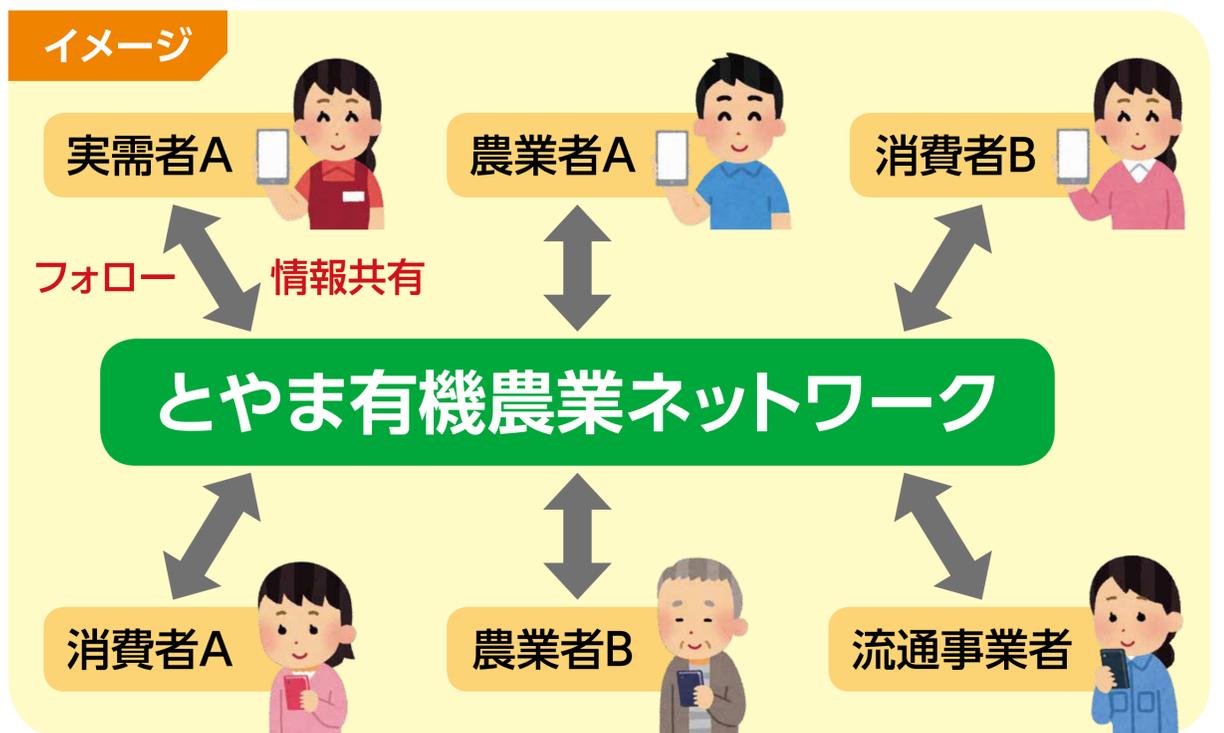
循環型有機農業の実践など

とやま有機農業ネットワークの開設

有機農業に関心のある人が、多様な情報の共有や交流ができる場をSNS上に開設し、有機農業のネットワークづくりを推進しています。



フォローは
こちらから



河上 めぐみ さん (富山市土)

電話：076-468-2178

【(有)土遊野 代表取締役】

HPアドレス：<https://doyuuno.net/>



労働力 家族労働4人、従業員16人

研修生等の受入れ 可能

農産物の生産データ

品目	作付面積	出荷時期	有機JAS
米 (主食用米・有機)	1,900 a	通年	有
飼料用米	1,000 a	—	無
平飼い卵	1,200羽	通年	無
地鶏肉	800羽	通年	無
キウイフルーツ	10 a	11-翌5月	有
大豆 (きな粉)	30 a	通年	無
小麦 (全粒粉)	30 a	通年	無
そば (そば粉)	100 a	通年	無
ジャガイモ	10 a	7-12月	無
ニンジン	10 a	10-翌2月	無

農産物の販売先

- JAあおば直売所、黒崎屋、地場もん屋総本店、そよかせ直売所、自然食品店ありがとう、とやま生協、県内外の飲食店、名古屋生活クラブ
- 直営ECサイト2店舗、産直サイト(食べチョク)を通じた販売

栽培方法 (水稻)

■土づくり・施肥

- 毎年秋に、圃場の状態に応じて自家製鶏糞堆肥(150kg/10a)を散布。
- 地力維持のため、実施可能な圃場では、冬季湛水を実施。
- 春に自家製鶏糞堆肥(150kg/10a)を散布し、田植時に大豆と米糠ペレット肥料を散布。

■育苗(田植え)

- 種子は温湯消毒を実施。
- 育苗はポッド育苗で、代かき後に干した圃場に並べて成苗まで育てる。
- 田植えは5月20日頃から実施(基本47株植とし、圃場により株数を調整する)。

■病害虫管理

■除草対策

- 健苗育成と疎植によって、風通し良く育てる(病害虫は問題にしていない)。
- 2交代かきの実施。
- 米糠ペレットの散布による抑草と機械除草・アイガモ除草の実施。

農家のひとこと

■有機農業を始めたきっかけ

- 里山で生まれ育ち、両親がとても前向きに農業して生きていた姿を見ていました。大学時代は、東京で農業から離れた生活を経験し、自分たちの時代には、だれが食糧を生産してくれるのか、また棚田の引き継ぎ手がないことへの危機感を持つようになりました。
- 地元に戻ってからは、食べることを通じて、命をいただいているということを伝えたい、人と大地の絆を結びたい、限界集落と呼ばれている場所に可能性を拓きたいと、里山で人が育つ循環型の有機農業経営に挑戦しています。

■これから始める人へ(アドバイス)

- 「自分がなんのために農業をするのか=農業の目的」を持つことです。目的を持つことで、どこで農業をするのか、何を育て、だれに届けるのかを決めていくことができ、その目的に共感してくれる人が、必ず力を貸してくれます。
- 土遊野では「種まきから食べるところまでが農業」として、生産・販売・体験などを仕事としています。これから始める方は、どこからどこまでを仕事として行うのか、自分の思う農業を自覚しておく、いろいろな外的要因に左右されないと思います。



杉林 外文 さん (富山市長岡)

電話：090-5687-7969

HPアドレス：<https://hachivege.wordpress.com>

労働力 本人1人、ボランティア複数人

研修生等の受入れ 可能



農産物の生産データ

品 目	作付面積	出荷時期	有機JAS
野 菜 ピーマン、ナス、トマト、 スイカ、ビーツ、 行者ニンニク、カボチャ 等	約200 a	品目による	無

農産物の販売先

- ホームページ、産直サイト(食べチョク)を通じた販売

栽培方法 (野菜)

■土づくり・施肥

- キノコ菌床100t/10a、木質チップ100t/10a、貝石灰、木灰を、独自の配合割合で施用。

■病害虫管理

- 病害虫の発生状況に応じて、木酢液、電解水、漢方薬、ニンニクエキス等を使用。

■除草対策

- マルチと機械除草で対応。



マルチ栽培



キノコ菌床と木質チップ

農家のひとこと

■有機農業を始めたきっかけ

- 20年前に、人の生命をつくる安全な食を提供したいという強い思いが芽生え、富山市大長谷で栽培方法を研究し始めました。昨年より、富山市長岡の農地で、土づくりを基本とした安全安心にこだわった野菜栽培に取り組んでいます。

■これから始める人へ(アドバイス)

- 農業には、人の命となる食を届ける大切な役割を担っています。これから挑戦する人は、誇りをもって、安全・安心な農産物を作ってほしいです。

廣 和 仁 さん (氷見市長坂)

電話：090-1318-8640

HPアドレス：<https://nicefarm.jimdo.com/>



労働力 本人、家族労働1人、研修生1人 研修生等の受入れ 可能

農産物の生産データ

品 目	作付面積	出荷時期	有機JAS
野 菜 ピーマン、ナス、キュウリ、ズッキーニ、スイカ、カボチャ、メロン、サツマイモ 等	100 a	品目による	無
水 稻	20 a	無	無

農産物の販売先

- 飲食店、フレッシュ佐武、黒崎屋
- 自社ホームページ

栽培方法 (野菜)

■土づくり・施肥

- ほ場の水と空気の流れを良くすることを重点に置き、土壌微生物の力を活かす。
- 条件が悪いほ場は、麦(大麦、小麦、ライムギ)と大豆の作付けや大豆と野菜の混植を行う。これにより、大豆由来の根粒菌の力を活かす。



草生栽培

■病害虫管理

- 防虫ネット等による物理的防除で対応。
- 土づくりと自家採種による植物自体の免疫強化。



マルチ栽培

■除草対策

- マルチと機械除草で対応するが、部分的に草を残すことで土壌微生物の力を活性化させる。

農家のひとこと

■有機農業を始めたきっかけ

- 木村秋則氏の自然栽培に興味を持ったことがきっかけです。石川県羽咋市で自然栽培を3年間学び、その後、地元氷見に戻って自然栽培に取り組んでいます。

■これから始める人へ(アドバイス)

- 自然栽培はイメージされているほど難しいものではなく、誰でも出来る省力的な栽培方法です。自然を理解し、自然と同調し、植物が本来持つ力を最大限に生かす栽培方法です。土づくりさえ出来てしまえば、あとはわりと簡単に出来ます。

袁 口 潔 さん (南砺市田尻)

電話：0763-22-5165

HPアドレス：<https://gensenmai.com/farmer/minofarm#>



労働力 本人、家族労働3人

研修生等の受入れ 可能

農産物の生産データ

品 目	作付面積	出荷時期	有機JAS
水 稻 (コシヒカリ等)	600 a	通 年	有
ニ ラ	5 a	9月～	有

農産物の販売先

- 富山市内のレストラン、ホームページ、生協を通じた販売等

栽培方法 (水稻)

■土づくり・施肥

- 田植前に、木灰ペレット(100kg/10a)や発酵鶏糞(150kg/10a)を組み合わせて施用。
- 基肥は、市販の有機質肥料を側条施用(45kg/10a程度)。
- 穂肥は、幼穂形成期前の生育状況に応じて、市販の有機質肥料や木灰ペレットを施用。

■育苗(田植え)

- 種子は、JAから無消毒種子を購入し、温湯消毒を実施。
- 育苗はプール育苗(育苗期間20日程度)。
- 田植えは、5月中旬から実施。

■病害虫管理

- 病害虫の発生状況に応じて、EM菌や自家製の木酢液を散布。

■除草対策

- 深水管理で雑草の発生を抑え、乗用型除草機による機械除草を実施(田植後に4回実施)。

農家のひとこと

■有機農業を始めたきっかけ

- H15年から行政による有機農業の推進が始まり、新しいことに挑戦しようと有機農業を志しました。
- 現在は、地元で有機農業を根付かせたいと、有機農業者グループを立ち上げ、若い農業者への指導や栽培支援に取り組んでいます。オーガニックの普及活動もしていますので、ぜひ遊びに来てください。

■これから始める人へ(アドバイス)

- 栽培技術(農法)を学ぶだけでなく、販売力としての商品や人を売りこむ技術、伝える技術も重要です。

宮田 香代子 さん (富山市小羽)

電話：076-468-0034 【(有)小原宮農センター 代表取締役】

HPアドレス：<https://ohara-organicfarm.amebaownd.com/>

労働力 役員3人、従業員8人、パート3人 研修生等の受入れ 可能



農産物の生産データ

品 目	作付面積	出荷時期	有機JAS
水 稻(うるち米、もち米、酒米、黒米)	約40ha	契約、自家加工用	有
大 豆	約15ha	契約、自家加工用	有
レンコン、サトイモ	20 a	11～3月	有
葉物軟弱野菜	3.6 a	7～3月	有
エダマメ、キャベツ等	—	その年の作付けによる	有

農産物の販売先

- 地元直売所 (JAあおば みのり館・ほほえみ館・おわら館、地場もん屋総本店)
- 地元インショップ (アルビス、ファボーレ)
- 富山県アンテナショップ (有楽町、日本橋)
- オーガニック専門の宅配 (ビオ・マルシェの宅配)

栽培方法 (水稻)

■土づくり・施肥

- 毎年秋に、稲わら処理を実施。
- 土壌診断に基づき、毎年秋もしくは春に、自家製ボカシ、牛糞堆肥、発酵鶏糞、ミネラル資材を組み合わせて施用。
- 基肥と追肥は、市販のボカシペレットや酒粕ペレットを施用。

■育苗 (田植え)

- 種子はJAから購入した無消毒種子と自家採種、充実した籾を選抜するために塩水選を行い、温湯消毒と催芽時食酢処理を実施。
- 播種は1箱あたり60gの条播。プール育苗 (育苗期間40日程度)。
- 田植えは、8条田植機で、坪当たり60株植を基本に実施。
- 田植期間は、5月上旬～6月中旬 (コシヒカリ、日本晴、新大正糯、カグラモチ、富の香、黒米)。

■病害虫管理

- 農薬による防除は行わない。
- 斑点米カメムシ等による着色米・被害粒は、色彩選別機で対応。

■除草対策

- 乗用型除草機による機械除草を実施 (田植後に2～3回実施)。



田植後の機械除草

農家のひとこと

■有機農業を始めたきっかけ

- 1990年代から、生産者自らの健康や環境に配慮した生産をしたいという思いと、安全なものをお口にしたい消費者の思いが一致して、有機農業に取り組み始めました。
- 現在は、生産ほ場がある地域の循環 (生態系・土壌・水質) や適地適作を念頭に、地域の田園風景を守り、次の代まで引き継げる持続的な生産を目指しています。

■これから始める人へ (アドバイス)

- 栽培管理だけでなく、有機JAS認証に係る事務処理能力、マーケット確保による情報収集や販売方法、機械導入や省力化の方法など、様々な視点や考え方を取り入れ、学んでいくことが重要です。